

好奇心漫遊記：世の中面白い事だらけ

社会科編-8：びっくり北京5日間二人で5万円

矢澤 洋爾



表題の新聞広告を見て、是非行ってみよう、という事になった。東京から出雲に帰省すると往復の飛行機代だけで一人5万円かかる。その料金で二人が5日間海外旅行を楽しめる、というのだから魅力的だ。おまけに食事も現地のバス代も博物館などの入場料までがその中に含まれている。一体、どうなっているのだ、と誰しもが不思議に思うのではなかろうか。今回はその実態をレポートする。

まず、日程。午後成田を立って、夜北京に入り、帰りは朝早く北京を立つ。いわば、5日間と言ってはいるものの、前後二日は単純に移動日で実質3日間である。これはアジア旅行では注意すべきことで、最初の日の午後、最後の日の午前、現地で観光が可能かどうかで、丸一日の内容に違いが出る。

さて、最初の日。ホテルに着いたときは既にあたりは暗く、様子が良く分からない。新聞広告には「ホテルは建てたばかりの新しいホテル」とあった。なにやら玄関先でまだ工事をしているようだ。「建てたばかり」どころか「建設中」ではないか？部屋に入ると決して新しい訳ではないのだが……翌日玄関に出てみると、確かにまだ工事中だった。だがそれ以上に驚いたのは周囲の環境。ハングル文字が氾濫する、ちょっと怖そうな路地が目の前にある。

でもこんなことでひるんではいけない。しばらくすると、我々が乗るバスの横を現地の人が出勤し始めた。こういう、現地の人の生活に直に触れる事が出来るのは、僕にとって旅行の一つの醍醐味で、観光客しかいないような、生活か



ら遊離した都心のシティーホテルよりむしろ歓迎したいくらいだ。

バスに乗り込んで一日目の観光が始まる前、現地のガイドは「今回はホテルは寝るだけ。部屋はまあ良かったでしょう。」と言い訳めいたことを言う。夜遅く真っ暗な路を一人で歩いたりさえしなければ、後はバスでの送迎がついているのだから、ホテル周辺の環境は文句を言えた義理ではない、というところか。



そう言いながら、しかしやっぱりホテルの周りをウロウロしてみたい、という欲望は抑えられない。ホテルのすぐ前にある店も覗いてみたいのだが、怖い店だったら困るなあ、と思いながら玄関の上のハンゲル文字を見る。これをそのまま読むと「シュポマケツ」と読める。はあ、スーパーマーケットの事だな、と初めてハンゲルを勉強した事が生きた。確かに「超市」ならスーパーマーケットだ。これなら大丈夫、と思い切って戸を開く。中はポテトチップスのような袋物と酒やペットボトルなどの飲み物しか置いてない。袋は全てほこりをかぶっていて、何年も前から並べられていたような風情。袋を手にして製造年月日を確認すればよかったと後になって後悔したが、そんなことをしたら袋に指紋がついて売り物にならなくなった、と怒られたかも知れない。

ホテルの朝食はいままで中国で泊まったどのホテルよりも口に合わなかった。まず、冷たい飲み物がない。朝は冷たい牛乳を飲まないと一日が始まらない私は入り口に控えるウェイトレスに「冷乳」と書いて見せるが首を振るばかり。なんでもいから冷たい飲み物をくれ、とばかり「冷飲料」と書いて見せると、厨房へ行って水道の蛇口をひねってコップに入れた水をよこす。水道の水は沸かし冷まししか飲まない主義なので、仕方ない冷たい飲み物は諦めた。コーヒーに入れる砂糖も、目玉焼きにかける塩も実に大胆に出してある。これが中国標準なのだろう。



朝食バイキングが口に合わないのは反面良い事もある。お陰で食べ過ぎに悩むことなく旅行を楽しむ事が出来たから。

パック旅行の安さの秘密は、現地でいろいろ買い物をするとところにある。土産物屋やレストランのビールの値段は日本標準の価格なので、その差額で旅行会社が収支を合わせている、という事だ。だから土産物屋に現地の人がいることはまずないし、レストランでも日

本人団体客が隔離されたような状態である事が多い。

今回のパック旅行を魅力的に思った事の一つに、自由行動の日が設定されていたことである。パック旅行の一つの悩みは、望んでもいない土産物屋に連れて行かれて何時間も時を無駄にする事である。それは旅行会社の収支上やむを得ないことなのではあるが。だから土産物屋に行かなくて済む自由行動は大変ありがたい。実は自由行動の日はオプション旅行が組まれていて、その参加費は一人8000円だという。

私がかねて行って見たかった円明園へ行くことにした。清の乾隆帝がカステリオーネに立てさせた西洋風の建物が、英仏が荒らしたままに放置されている。北京で最も歴史を感じる事の出来る場所ではないだろうか。

円明園まではホテルから最寄の地下鉄の駅までタクシーで10元（約150円）地下鉄2元（約30



円) 更に駅から園の入り口までタクシーで12元（約180円）で行く事が出来た。

自由行動の日の夕食は前の日、皆で行った王府井の中華料理屋へ行った。特においしい店だったこともあるし、パック旅行の場合と一般の場合の価格の違いを見たかったからだ。すると、パック旅行で入ってビールを頼むと1本30元（約450円）だが、一般の客として入ったら6元（約90円）だった。この差額が旅行会社に入るわけだ。店の人は私が日本人である事を知ると、「こちらの方がおいしいですよ」と別の12元のビールを勧めてきた。このレストランでは満腹になるまで食べて、残った料理を持ち帰りさせてもらって総額100元（約1500円）だった。勿論二人分である。

その他、旅行会社の収入になると思われるものを記しておく。京劇の観光ツアーが組まれていた。オプションで3900円。だが、後で旅行ガイドを見ると入場料は30元（約450円）とある。旅行ガイドの出版年が若干古いので現在はもう少し上がっているかも知れないが。水道の水が飲めないなので、ミネラルウォーターを買うことになるのだが、バスの中では3本10元（約150円）、2本で100円で販売していた。これも町のスーパーで買うと1本1元（約15円）で買う事が出来た。

パック旅行の一番お得な楽しみ方は、現地へ行って完全に自由行動をすることだろうと思われる。だがおそらくそれを旅行会社は許さないであろう。

その他思い出の写真



火災で黒焦げになった建物



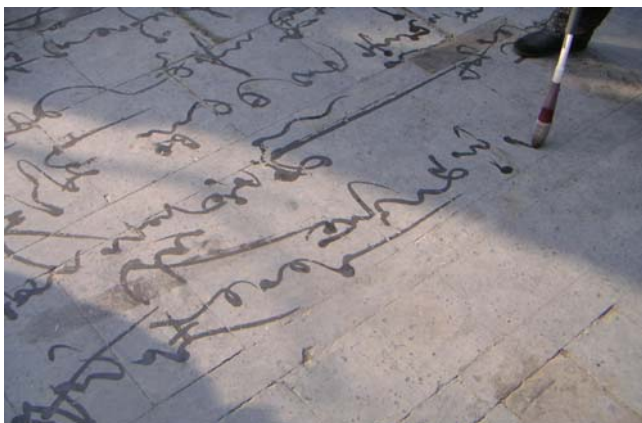
鳥の巣の横にあるホテル。どうやって作ったの？



劉少奇は復活したか



頤和園で達筆を争う人達



頤和園の池
西太后もこの景色
を楽しんだ

(09.06.21)